

緑が丘駅周辺地区交通バリアフリー整備計画

平成 19 年2月

目 黒 区

目次

はじめに	1
1. 緑が丘駅周辺地区の現況と課題	2
2. 地区別方針	7
3. 主要施設・主要経路の選定、推進地区の設定	8
4. 主要事業の選定	11
5. 主要事業の整備プログラム	13

はじめに

平成12年11月に、『高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化に関する法律（交通バリアフリー法）』が施行されたのを受けて、平成15年度に、区は3駅周辺（中目黒駅・都立大学駅・自由が丘駅）を重点的に整備する交通バリアフリー推進地区とし、他の10駅周辺（駒場東大前駅・池尻大橋駅・祐天寺駅・学芸大学駅・目黒駅・武蔵小山駅・西小山駅・洗足駅・大岡山駅・緑が丘駅）を福祉のまちづくり推進地区とした、目黒区交通バリアフリー推進基本構想（平成16年3月策定）を取りまとめました。

福祉のまちづくり推進地区の緑が丘駅周辺地区においては、平成18年度から地元懇談会での話し合いや関係機関との協議を行いながら計画づくりに取り組んできました。

この度、緑が丘駅周辺地区交通バリアフリー整備計画を策定しましたので、今後は区民、事業者、行政とが連携を図りながらバリアフリー化の実現に取り組んでまいります。

引き続き区民の皆様のご理解とご協力をお願いします。

1. 緑が丘駅周辺地区の現況と課題

(1) 緑が丘駅周辺地区の概況

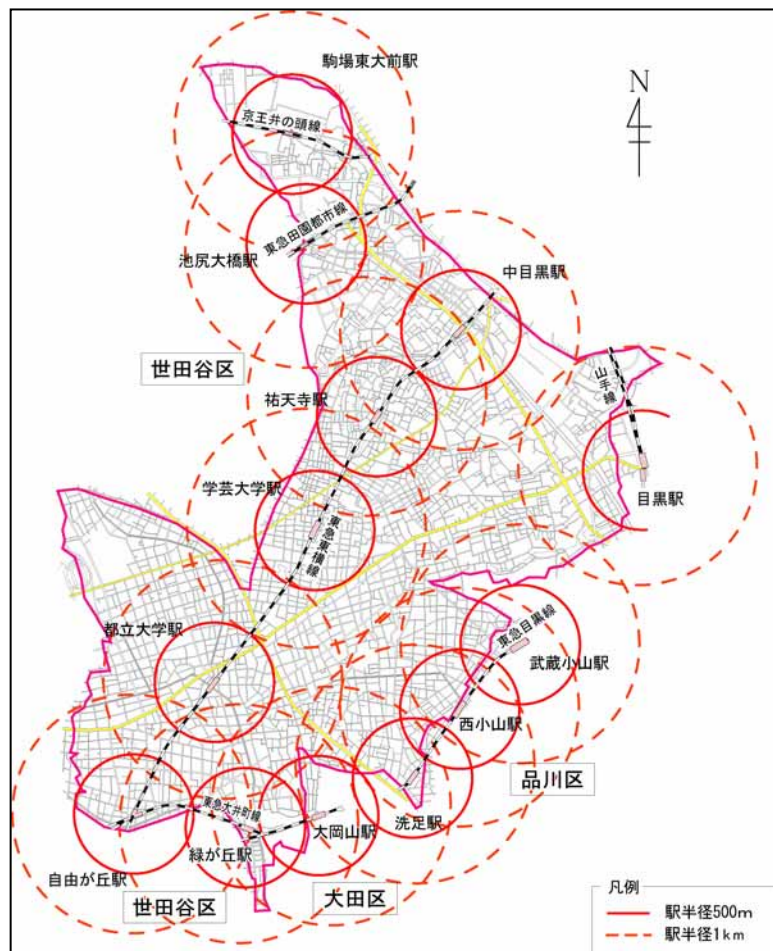
① 緑が丘駅の位置

緑が丘駅は、目黒区の西南に位置する東急大井町線の駅です。隣接して、西に自由が丘駅、東に大岡山駅が位置しています。

② 乗降客数

緑が丘駅の1日あたり乗降客数は9,051人（平成17年度）です。

目黒区の駅の分布と徒歩圏の状況



(2) 現況と課題

ア 駅舎及び駅周囲 (課題1)

① 駅舎の状況

駅舎そのものについては、改札階からホーム階へのエレベーター等昇降設備が未設置で、トイレそのものも設置されていません。

また、ホームの端部では幅員が極端に狭い状況となっています。

② 駅舎へのアクセス

駅舎入口部分は階段状になっており、高齢者や車椅子使用者等が駅舎へアクセスする際のバリアとなっています。

一方、前面道路は比較的交通量のある路線であり、信号機が設置された交差点に面しています。しかし、歩道が設置されておらず、歩行者の滞留スペースが確保されていないため、車椅子やベビーカー等は車道上で信号待ちをする状況となっています。

また、駅前交差点付近は見通しもよくない状況です。

③ 駅周囲の状況

駅に関連する施設としては、九品仏川緑道と工大橋下流に自転車置場が設けられています。しかし、「目黒区放置自転車対策基本計画」によると、平成15年10月の調査では、収容台数220台に対し利用台数163台、放置台数139台(不足台数82台)と放置自転車・原付バイクが多い状況です。また、駐車車両が多く歩きづらいといった意見も出されています。

この他駅に関連する施設として、駅舎向かいの九品仏川緑道内に公衆トイレが設置されているものの、入口に段差がある等バリアフリー対応となっていません。

また、緑が丘駅バス停は、駅前の横断歩道を渡って南に50mほどの場所にあり、歩道がないことから車道に面して設置されている状況です。

④ 駅舎及び駅周囲の課題

駅舎については、エレベーター等昇降設備やだれでもトイレの設置等バリアフリー化を早期に図る必要があります。また、必要収容台数を確保するための自転車駐車場、駅舎へのアクセス向上に向けた歩行者空間の確保など、駅舎のバリアフリー化とあわせて一体的な駅関連施設の整備が必要な状況です。

緑が丘駅バス停留所は、駅から50m程離れた歩道のない道路路側(世田谷区道)に設置され、利便性が低い状況です。

イ 緑が丘交番前交差点の横断環境（課題2）

六叉路の緑が丘交番前交差点は、住宅地にあつては比較的交通量の多い路線が交差しています。信号機が設置されているものの、歩行者用信号機が設置されていない方向もあります。加えて、六叉路という形状から歩行者にとっては信号現示が分かりづらい状況となっています。

また、歩行者滞留スペースも十分ではなく、区画線も磨耗が激しい等、総合的な横断環境の改善が必要です。

ウ 目黒線の横断環境（課題3）

東急目黒線を横断する目黒区内の踏切（大岡山1号踏切のみ）は、緑が丘駅から世田谷区立奥沢中学校を経て、補助126号線（幅員15m）を經由し放射2号線（中原街道・幅員25m）に至る路線（主要区画道路／区道H47号）に位置しています。

この踏切から約20m東に九品仏緑道が位置しているものの、目黒線横断のための踏切は設けられていません。呑川緑道の目黒線横断については、地下道が設けられて便利との評価もありますが、エレベーター等の昇降設備は設けられておらず、車椅子等は利用出来ない状況です。

現在のところ目黒線の立体交差化の予定はなく、緑が丘駅から南（緑が丘3丁目方面）へ向かう経路としてこの踏切は重要な位置づけとなっています。

しかし、レールに車椅子の車輪がはまりやすい状況であること、さらに、自動車交通量が一定程度あるにもかかわらず、歩行者滞留スペースが十分ではなく、鉄道敷きに向かって傾斜がある等、目黒線の横断環境の改善が望まれています。

エ バス通り（中根小通り）の歩行環境（課題4）

バス通り（中根小通り）は、緑が丘駅から東急東横線都立大学駅を結ぶ経路であり、駅から中根小学校や中根公園に向かう路線ともなっています。また、主要生活道路に位置づけられており、対面通行二車線で地区内では比較的交通量のある路線です。制限速度は時速30キロであるものの、速度標識が木陰に隠れて見えづらく、制限速度以上にスピードを出す車両もあります。

しかし、歩道は設置されておらず、バス停は車道に面して設けられています。

バリアフリー化はもとより安全性が確保されていない状況であることから、歩行環境の改善が必要です。

オ 緑道の歩行環境（課題5）

2つの緑道のうち九品仏川緑道は、自由が丘を経て浄真寺（九品仏）まで連続しており、呑川緑道は中根住区センター、都立大学駅を経て、八雲地区を東西に走り世田谷区に続いています。

散歩道として最適である一方、フェンスやストリートファニチャーの損傷・老朽化、路面の損傷など、快適性が損なわれている状況となっています。また、幹線道路との交差点に視覚障害者誘導用ブロックがない場所もあります。

さらに、区道と緑道との境にコンクリートによる段差が生じている箇所もあります。段差解消のために傾斜を設けている部分でも、勾配が急なために車椅子の走行が困難と思われる箇所も見られます。この他、呑川緑道の目黒線南側付近にトイレの設置要望があります。

快適性を含め、歩行環境の改善が必要です。

カ その他道路の歩行環境（課題6）

歩道が設置されている道路については、歩道部がマウントアップ方式であるため、民地からの切下げ部分で平坦部の幅員が十分確保できていない状況にあります。また、歩道上に郵便ポストが設置されている箇所や、プランター等が設置され、通行の妨げとなっている箇所が見られます。

歩道が設置されていない道路では、区画線等の磨耗、路面の凹凸等が多く箇所で見られます。

また、交通事故が発生している箇所の指摘もあります。

こうした状況を踏まえ、歩行環境の改善が必要です。

キ 隣接推進地区とのバリアフリーネットワーク化の強化（課題7）

緑が丘駅周辺地区の西には自由が丘駅周辺地区（交通バリアフリー推進地区）が、北には都立大学駅周辺地区（交通バリアフリー推進地区）が、そして東には大岡山駅周辺地区（福祉のまちづくり推進地区）が位置しています。

自由が丘駅周辺地区とは、主要経路2路線が連続して設定されているものの、都立大学駅周辺地区、大岡山駅周辺地区とは連続した主要経路が設定されていません。

区全体のバリアフリーネットワーク化の充実を図るためには、都立大学駅周辺地区、大岡山駅周辺地区との間に主要経路を設定することが望ましいと考えます。

緑が丘駅周辺地区 福祉のまちづくり推進地区 課題

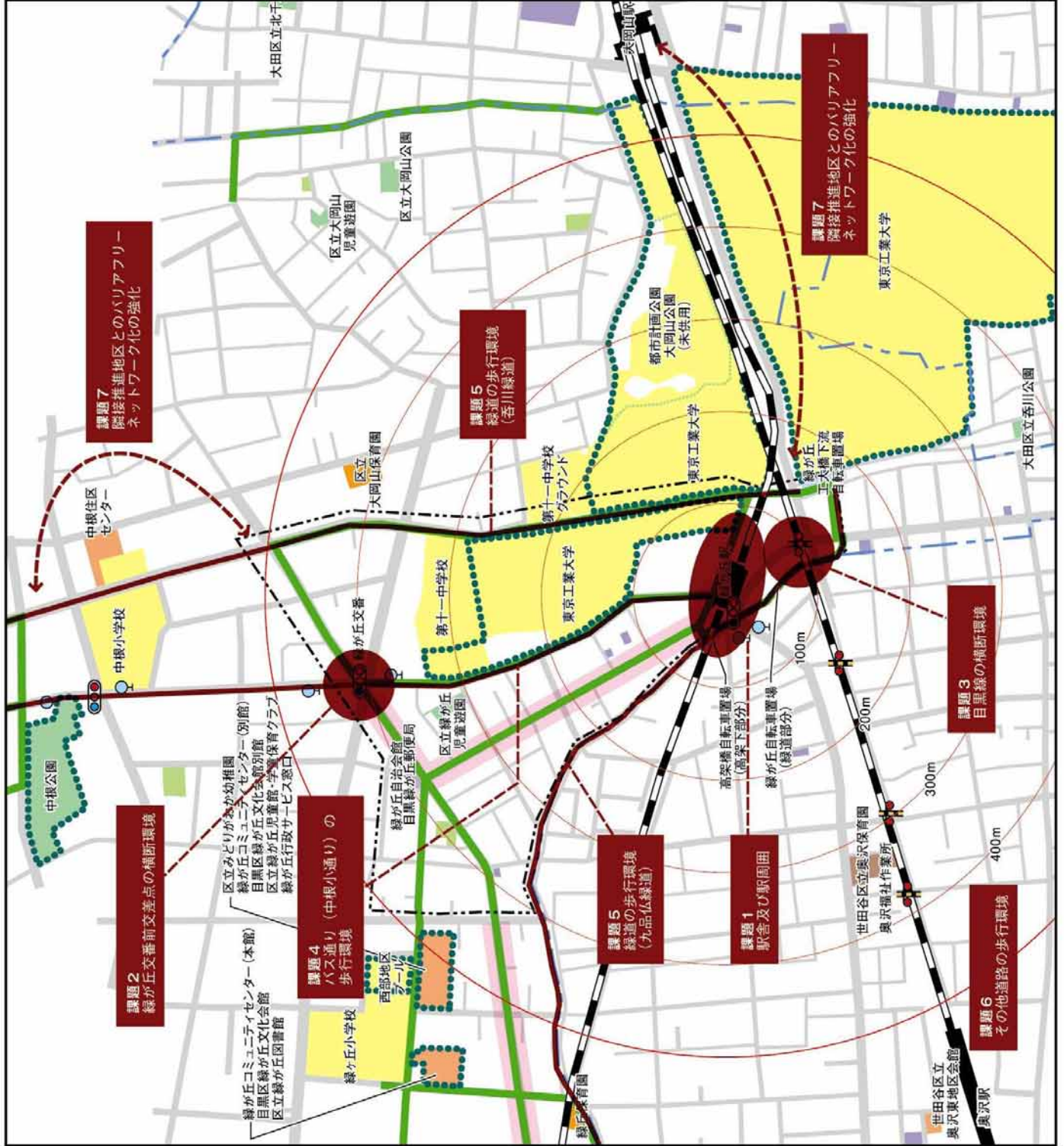
【凡例】

- 福祉のまちづくり推進地区
- 主要施設
- 主要経路

- 社会福祉施設
- 保健医療施設
- 行政サービス施設
- 教育施設
- その他の公共施設
- 公園
- 商店街
- 杜寺
- バス停
- 信号機
- 踏み切り

【緑が丘駅施設】

- エスカレーター なし
- エレベーター なし
- 上りホーム～改札階 なし
- 下りホーム～改札階 なし
- だれでもトイレ なし
- ホームの安全 視覚障害者誘導用ブロックあり
- 駅前広場 なし



2. 地区別方針

平成15年度策定の「目黒区交通バリアフリー推進基本構想」の地区別構想では、緑が丘駅周辺地区では「地区別方針」（注1）が設定されています。

策定後の状況変化を踏まえて、「地区別方針」の見直しを行いました。

見直し後の地区別方針

- ・ 駅舎にエレベーターやだれでもトイレを設置し、バリアフリー化していきます。
- ・ 歩行者空間を確保し、公共交通機関へのアクセスの安全性と利便性を向上します。
- ・ 緑が丘駅と3つの隣接推進地区との歩行空間のバリアフリーネットワークを形成します。

注1

【平成15年度策定時の地区別方針】

- ・ 駅舎にエレベーターやだれでもトイレを設置し、バリアフリー化していきます。
- ・ 駅前広場機能の確保を検討していきます。
- ・ 駅周辺に広がる商店街と呑川緑道の歩行空間のバリアフリーネットワークを形成します。
- ・ 整備計画の作成にあたっては、世田谷区と連携していきます。

3. 主要施設・主要経路の選定、推進地区の設定

(1) 基本構想における主要施設・主要経路・推進地区設定の考えかた

平成15年度策定の「目黒区交通バリアフリー推進基本構想」では、主要施設等の設定の考え方を以下のように示しています。

【主要施設】

徒歩による利用が多い官公庁施設、福祉施設、商業施設、その他の施設

【主要経路】

特定経路を補完して回遊性を形成する経路で、徒歩で主要施設に至る経路、または区民の暮らしを支える商店街などの経路

【推進地区】

福祉のまちづくり推進地区は、中心となる駅、「主要施設」、「主要経路」とその沿道を取り囲む範囲とします。

緑が丘駅周辺地区の地区別方針では、これに基づき主要施設として東京工業大学を、主要経路として呑川緑道、バス通り（中根小通り）、緑が丘商店会の南北方向の通り、補助46号線、緑ヶ丘小学校南側道路、九品仏川緑道（緑が丘駅以南部分）、緑が丘駅北側の東西道路を設定しています。

また、本地区周辺では中根公園が都立大学駅周辺地区の主要施設に、緑が丘コミュニティセンター本館及び別館、西部地区プールが自由が丘駅周辺地区の主要施設となっています。

(2) 主要施設の選定

①東京工業大学

現在本地区で唯一主要施設に設定されている東京工業大学については、多数の利用者があることから引き続き主要施設として選定するものとします。

②中根住区センター（新規）

緑が丘駅から500mの圏外に位置するものの、多くの区民が利用する施設であることから、新たに主要施設に設定するものとします。

(3) 主要経路の選定

①呑川緑道（延伸）

現在主要経路に選定されている区間は補助 46 号線から緑が丘工大橋下流自転車置場付近までとなっています。一方、北側に位置する都立大学駅周辺地区では、呑川緑道の中根公園南側東西道路までの区間が主要経路となっています。

都立大学駅周辺地区の主要経路区間と連続させることで、都立大学駅と緑が丘駅間のバリアフリーネットワーク化が図れることから、中根公園南側東西道路まで主要経路の区間を延伸するものとします。また、中根住区センターから中根小学校前バス停への経路についても新たに主要経路として選定します。

②バス通り（中根小通り）（延伸）

バス通りについても、都立大学駅と緑が丘駅間のバリアフリーネットワーク化を図るため、中根公園南側東西道路まで主要経路の区間を延伸するものとします。

③緑が丘商店会の南北方向の通り

商店街としての機能は低下しつつあるものの、地域住民が安心して通行できる路線であることから、引き続き主要経路として位置づけるものとします。

④補助 46 号線

自由が丘駅と呑川緑道を結ぶ主要な路線であることから、引き続き主要経路として位置づけるものとします。

⑤緑ヶ丘小学校南側道路

自由が丘駅周辺地区の主要施設である緑が丘コミュニティセンター本館及び別館、西部地区プールと、緑が丘商店会の南北方向の通りを結ぶ路線であることから、引き続き主要経路として位置づけるものとします。

⑥九品仏川緑道（延伸）

現在主要経路に選定されている九品仏緑道の区間は、緑が丘駅以南のみです。一方、西側に位置する自由が丘駅周辺地区では、九品仏川緑道の東急大井町線との交差部（緑丘保育園付近）までの区間が主要経路となっています。

自由が丘駅と緑が丘駅間のバリアフリーネットワーク化については、既に 2 路線ありますが、バリアフリーネットワーク化を充実させるため、東急大井町線との交差部（緑丘保育園付近）まで主要経路の区間を延伸するものとします。

⑦区道 H47 号（新規）

緑が丘駅以南については、九品仏川緑道が主要経路として選定されているものの、東急大井町線で分断されている状況であり、今後早期に横断歩行環境を整備することは困難と考えます。

このため、新たに区道 H47 号を主要経路として選定し、緑が丘 3 丁目方面のバリアフリー経路として整備を図るものとします。

⑧緑が丘駅北側の東西道路

駅周囲の回遊性を確保する経路であり、引き続き主要経路として位置づけます。

⑨大岡山駅への東西路線（新規）

隣接する大岡山駅へ連続する経路として、東京工業大学のキャンパス間に位置する東西路線を主要経路として新たに位置づけることとします。

（４）推進地区の設定

新たに選定した主要施設、主要経路、及び延伸した主要施設とその沿道を取り囲む範囲を、緑が丘駅周辺地区の福祉の街づくり推進地区として設定するものとします。

ただし、大岡山駅への東西方向の主要経路については、大岡山駅周辺地区の推進計画策定において、大岡山周辺地区区域に含めるものとします。

（p. 11 図-緑が丘駅周辺地区福祉のまちづくり推進地区 参照）

【見直し後の推進地区の面積・主要経路距離】

推進地区の面積：約 22ha

主要経路の延長：約 4.5 km

4. 主要事業の選定

主要事業1 駅舎のバリアフリー化及び駅関連施設の一体的な整備

【整備方針】

- ・ 駅施設がだれでも利用しやすいよう、駅舎のバリアフリー化及び駅関連施設を一体的に整備します。
- ・ 整備にあたっては、本計画内容を反映した「緑が丘駅周辺地区都市再生交通拠点整備計画」を踏まえて、関係者の協力を得ながら実施していきます。

【事業内容】

- ・ 駅舎にエレベーターやエスカレーター等の昇降設備、だれでもトイレの設置
- ・ 歩行者空間の確保
- ・ 呑川方面から駅舎へのアクセス向上
- ・ 緑が丘駅前公衆トイレのバリアフリー化
- ・ バリアフリー対応信号機の設置

主要事業2 目黒線の横断環境の改善

【整備方針】

- ・ 緑が丘3丁目方面への重要な経路上に位置する目黒線大岡山1号踏切の横断環境を改善します。

【事業内容】

- ・ 安全な滞留スペースの確保（区画線等の見直し）
- ・ 横断時の安全性の確保（歩行者通行帯の改善等）

主要事業3 緑道及び生活道路の歩行環境の改善

【整備方針】

- ・主要経路を順次バリアフリー化し、快適な歩行環境を形成していきます。

【事業内容】

- ・歩道設置箇所における切り下げの改善
- ・交通事故発生地点における区画線・標識等の見直し
- ・九品仏川緑道及び呑川緑道の路面段差の解消、ベンチ等休憩設備の更新
- ・緑が丘交番前交差点の横断環境の改善

主要事業4 駅周辺の放置自転車対策

【整備方針】

- ・高架下駐輪場を整備し、総合的な駅周辺の放置自転車対策を講じていきます。
- ・自転車の利用マナー向上のための啓発を継続して実施していきます。

【事業内容】

- ・高架下駐輪場の整備
- ・駅関連施設の一体的な整備にあわせた放置自転車等禁止区域の見直し
- ・自転車の利用マナー向上のための啓発

主要事業5 バリアフリー対応の案内施設の整備

【整備方針】

- ・駅にバリアフリー施設の位置がわかる総合案内板を整備します。
- ・駅周辺の経路に隣接推進地区とのネットワークを考慮した誘導・案内施設を設置します。

【事業内容】

- ・ユニバーサルデザイン*に基づく総合案内板の整備
- ・駅周辺経路での誘導・案内施設の設置

※ユニバーサルデザイン

高齢者、障害をもつ人等の利用に限定した特別なデザインではなく、すべての人が使用しやすい道具、建築、空間などのデザイン。

5. 主要事業の整備プログラム

主要事業1 駅舎のバリアフリー化及び駅関連施設の一体的な整備

駅施設がだれでも利用しやすいよう、駅舎のバリアフリー化及び駅関連施設を一体的に整備します。

整備にあたっては、本計画内容を反映した「緑が丘駅周辺地区都市再生交通拠点整備計画」を踏まえて、関係者の協力を得ながら実施していきます。

事業内容 ○ハード施策、◇ソフト施策	主要事業区分	事業者	目標年次（年度）						備考
			19	20	21	22	23	24～	
○駅舎にエレベーターやエスカレーター等の昇降設備、だれでもトイレの設置	公共交通	東急電鉄							
○歩行者空間の確保	公共交通 その他	東急電鉄 目黒区							
○呑川方面から駅舎へのアクセス向上	道路	目黒区							
○緑が丘駅前公衆トイレのバリアフリー化	その他	目黒区							
○バリアフリー対応信号機の設置	交通安全	公安委員会							

主要事業2 目黒線の横断環境の改善

緑が丘3丁目方面への重要な経路上に位置する目黒線大岡山1号踏切の横断環境を改善します。

事業内容 ○ハード施策、◇ソフト施策	主要事業区分	事業者	目標年次（年度）						備考
			19	20	21	22	23	24～	
○安全な滞留スペースの確保（区画線等の見直し）	道路	目黒区							
○横断時の安全性の確保（歩行者通行帯の改善等）	公共交通	東急電鉄							

主要事業3 緑道及び生活道路の歩行環境の改善

主要経路を順次バリアフリー化し、快適な歩行環境を形成していきます。

事業内容 ○ハード施策、◇ソフト施策	主要事業区分	事業者	目標年次（年度）						備考
			19	20	21	22	23	24～	
○歩道設置箇所における切り下げの改善	道路	目黒区							
○交通事故発生地点における区画線・標識等の見直し	道路 交通安全	目黒区 公安 委員会							
○九品仏川緑道及び呑川緑道の路面段差の解消、ベンチ等休憩設備の更新	その他	目黒区							
○緑が丘交番前交差点の横断環境の改善	道路 交通安全	目黒区 公安 委員会							

主要事業4 駅周辺の放置自転車対策

高架下駐輪場を整備し、総合的な駅周辺の放置自転車対策を講じていきます。
自転車の利用マナー向上のための啓発を継続して実施していきます。

事業内容 ○ハード施策、◇ソフト施策	主要事業区分	事業者	目標年次（年度）						備考
			19	20	21	22	23	24～	
○高架下駐輪場の整備	その他	目黒区							
◇駅関連施設の一体的な整備にあわせた放置自転車等禁止区域の見直し	その他	目黒区							
◇自転車の利用マナー向上のための啓発	その他	目黒区							

主要事業5 バリアフリー対応の案内施設の整備

駅にバリアフリー施設の位置がわかる総合案内板を整備します。
駅周辺の経路に隣接推進地区とのネットワークを考慮した誘導・案内施設を設置します。

事業内容 ○ハード施策、◇ソフト施策	主要事業区分	事業者	目標年次（年度）						備考
			19	20	21	22	23	24～	
○ユニバーサルデザインに基づく総合案内板の整備	その他	東急電鉄 目黒区							
○駅周辺経路での誘導・案内施設の設置	その他	目黒区							

緑が丘駅周辺地区 福祉のまちづくり推進地区

【凡例】

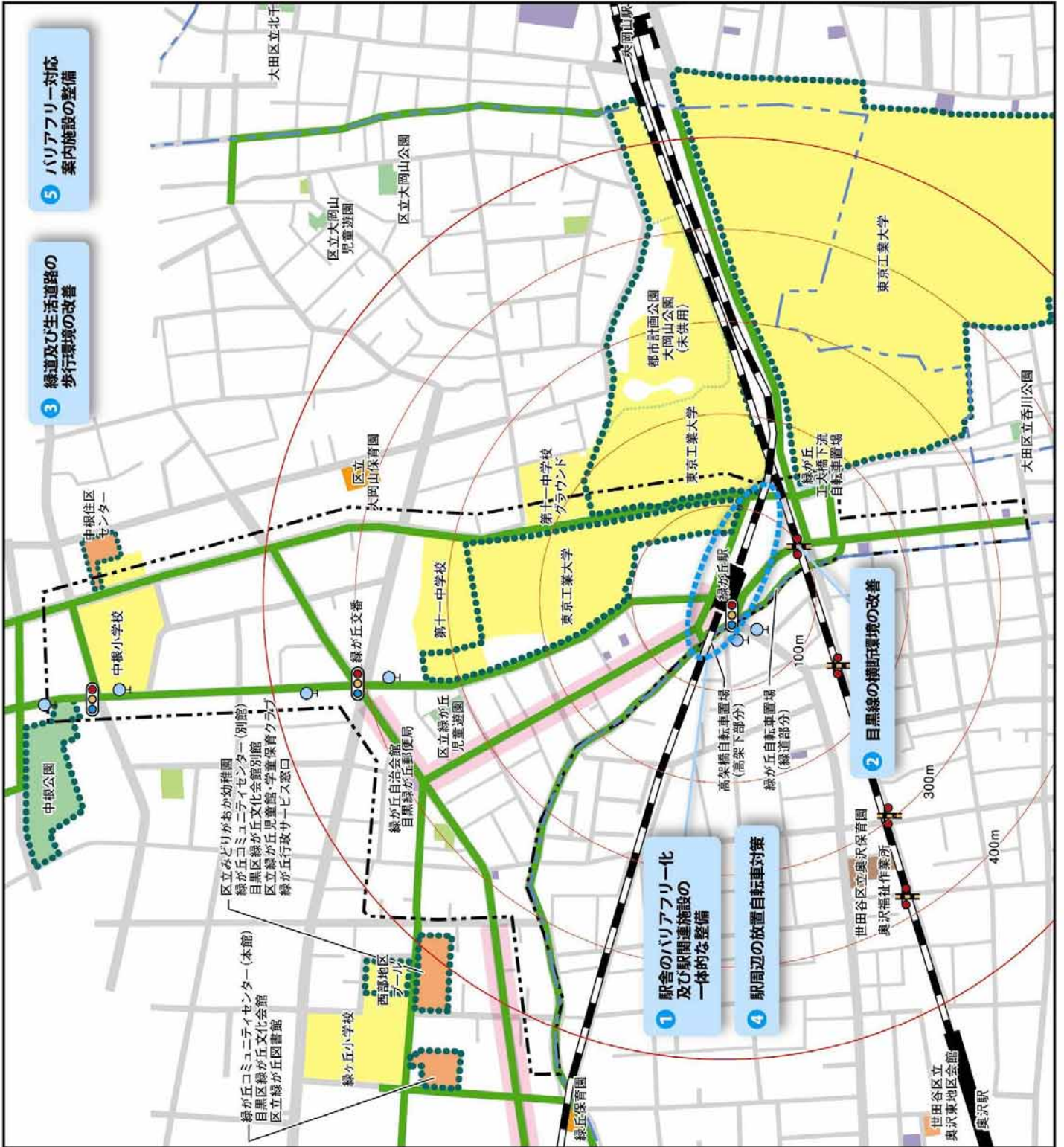
- 福祉のまちづくり推進地区
- 主要施設
- 主要経路

- 社会福祉施設
- 保健医療施設
- 行政サービス施設
- 教育施設
- その他の公共施設
- 公園
- 商店街
- 社寺
- バス停
- 信号機
- 踏み切り

推進地区の面積：約22ha
主要経路の延長：約4.5km

【緑が丘駅施設】

エスカレーター	なし	計画あり
エレベーター	なし	計画あり
上りホーム～改札階	なし	なし
下りホーム～改札階	なし	なし
だれでもトイレ	なし	計画あり
ホームの安全	視覚障害者誘導用ブロックあり	なし
駅前広場	なし	計画あり



5 バリアフリー対応
案内施設の整備

3 緑道及び生活道路の
歩行環境の改善

2 目黒線の横断環境の改善

1 駅舎のバリアフリー化
及び駅関連施設の
一体的な整備

4 駅周辺の放置自転車対策